

夢 童

菅波 茂

11月23日。第20回AMD A国際会議がインドの首都ニューデリーで開かれた。目的は南西アジアと中央アジアにおけるAMD A多国籍医師団ネットワークの強化だ。AMD A多国籍医師団の東南アジアでの災害医療救済活動ネットワークは、ほぼ完成の域に達している。何故、インドなのか。インドは世界に三つの大きな外交チャンネルがある。

一つは、1955年のバンドン会議に象徴される第3世界である。二つ目は海外在住インド人に代表されるアフリカや中近東。三つ目がパキスタンとの政治的対立軸としての中央アジアである。

決定的なのは、21世紀における中国と並ぶ経済・社会的存在感の増大だ。09年10月に東京と岡山で開催予定の第21回国際会議（AMD A設立25周年記念会議）でのAMD A

多国籍医師団ネットワークの完成に向けて、インドを一大拠点として位置付けることだった。会議には西南アジアからインド、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ブータンの代表が、中央アジアからはアフガニスタン、タジキスタン、カザフスタン、モンゴル、加えて

中央アジアに影響力があるトルコの団体代表などが参加した。東アジアからは韓国と台湾、東南アジアからはフィリピン、インドネシア、カンボジア、オセアニアからはニュージーランド代表が加

AMD A国際会議と第1回ガンジー人道支援賞

わった。

04年12月26日に発生した「200年に一度」と言われるスマトラ島沖大地震・津波被災者救済活動について、インドネシア、スリランカ、インドの代表が救済活動の検証結果を発表。ウマル・アユブハーン南アジア地域協力連合医師会会長、パキスタンでの緊急医療活動を紹介した。最近のパキスタンでのテロ被災者救済活動は、自然災害被災者救済活動とは別次元だった。メディアで紹介される中近東の内戦そのものだった。AMD A

が人災による被災者救済活動に取り組むとすれば、それなりの覚悟と体制が必要と思った。どの程度できるかわからないが、今後の相互協力を約束した。

11月23日、GARTT(ガ

ンジャーシユラム再建財団)の総裁ニルマラ・デシュパンテ氏から、アンブANI・ラマドル保健大臣の祝辞のもと、第1回ガンジー人道支援賞をいただいた。受賞の趣旨は「相互扶助精神にもとづいた災害医療救済活動を行ってきた菅波茂の人生」だった。その後、大統領府でパティール大統領からお祝いにバラの花束を贈られた。

ガンジーアシユラムは、南アフリカからデリーに帰国したガンジーが、若いインド人の志士たちと生活を共にしながら英国からの独立運動を行った記念すべき場所だ。ガンジーの寝泊まりした家、当時の映像など貴重な資料を保存している記念資料館、孤児たちの学校などがある。GARTTからは、一角にAMD Aニューデリー事務所開設の便宜を図って頂くことになった。ガンジーの高弟であり後継者であるニルマラ・デシュパンテ氏は、「AMD Aとガンジー精神」について講演してくれた。ちなみに、AMD Aインド支部のあるカスツルバは、ガンジーを崇拜するパイ家族の創業者によって命名されたガンジーの妻の名前である。ガンジーの「非暴力」とAMD Aの「相互扶助」が、更に「積極的非暴力」として「積極的相互扶助」として、21世紀の「多様性の共存」を可能にするコンセプトになることを期待したい。AMD A多国籍医師団がその象徴としての役割を果たせるなら望外の喜びである。

(AMD A代表)